

2024年10月27日 降誕前節第9主日礼拝次第
「永眠者記念」主日礼拝

前奏 (黙想)

招きの言葉 ヨハネの黙示録21章 22～23節(新約 479 ㊟)

讃美歌 15(みことばにより)

主の祈り <A>(讃美歌93-5)

詩編交読 詩8編 2～10節(交読詩編 14 ㊟)

聖書 箴言8章 1、22～31節(旧約 1001 ㊟)

祈禱

讃美歌 458(信仰こそ旅路を)

説教 「その道の初めに」 田中雅弘牧師

讃美歌 385(花彩る春を)

信仰告白 使徒信条<A>(讃美歌93-4)

献金

讃美歌 88(心に愛を)

派遣祝福

後奏 (黙想)

報告

※讃美歌は原則として全節を歌います。

聖書

知恵の勧め(三)

1 知恵が呼びかけ

英知が声をあげているではないか。

22 主は、その道の初めにわたしを造られた。

いにしへの御業になお、先立って。

23 永遠の昔、わたしは祝別されていた。

太初、大地に先立って。

24 わたしは生み出されていた

深淵も水のみなざる源も、まだ存在しないとき。

25 山々の基も据えられてはおらず、丘もなかったが

わたしは生み出されていた。

26 大地も野も、地上の最初の塵も

まだ造られていなかった。

27 わたしはそこにいた

主が天をその位置に備え

深淵の面に輪を描いて境界とされたとき

28 主が上から雲に力をもたせ

深淵の源に勢いを与えられたとき

29 この原始の海に境界を定め

水が岸を越えないようにし

大地の基を定められたとき。

30 御もとにあつて、わたしは巧みな者となり

日々、主を楽しませる者となって

絶えず主の御前で樂を奏し

31 主の造られたこの地上の人々と共に樂を奏し

人の子らと共に楽しむ。

主の祈りA(讃美歌21 93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。 アーメン。

讚美歌15番

- 1 みことばにより 天地は成れり。
天の使いの ハレルヤひびく。
- 2 平和のみ子の 生まれし朝は
ほめうた天に さやかにひびく。
- 3 地のものすべて ほろびゆくとも、
主はつくらる 新たな天地。
- 4 ふたたび主イエス 来たもう日まで、
世にある聖徒 ほめうたうたわん。
- 5 世にある聖徒 神に捧げよ、
愛とまことの 賛美のうたを。
- 6 いまわの時も ほめうたうたい、
死に勝つめぐみ われらにたまえ。

讚美歌88番

心に愛を 豊かにみだし
日ごとのわざに つかわしたまえ

讚美歌458番

- 1 信仰こそ旅路を みちびく杖、
弱きを強むる 力なれば、
こころ勇ましく 旅を続け行かん。
恐るべきものは この世になし。
- 2 わが主をかしらと 仰ぎ見れば、
ちからの泉は 湧きて尽きず。
恵みふかき主の み傷示されて
わずかに残る火 ふたたび燃ゆ。
- 3 主イエスの足跡 たどりゆけば、
けわしき山路も 越え行くを得ん。
疲ることなく、迷うこともなし、
ひたすら御神へ 近づきゆかん
- 4 信仰こそわが身の 杖と頼まん、
炎も剣も なにかはあらん。
代々の聖徒らを 強く生かしたる
いのちの聖霊 与えたまえ。

讚美歌385番

- 1 花彩る春を この友は生きた
いのち満たす愛を 歌いつつ。
悩みつまずくとき、この友の歌が
私をつれもどす 主の道へ。
- 2 緑もえる夏を この友は生きた、
いのち活かす道を 求めつつ。
悩みつまずくとき、この友のすがた
私をふりかえる 主の道で。
- 3 色づきゆく秋を この友は生きた、
いのち 他人のために 燃やしつつ。
悩みつまずくとき、この友は示す
歩みつづけてきた 主の道を。
- 4 雪かがやく冬を この友は生きた、
いのちあたためつつ やすらかに。
この日、目を閉じれば 思いうかぶのは
この友を包んだ 主の光